

札幌区の人口急増と都市整備

札幌区の人口急増と都市整備	
2015年10月3日	
札幌市公文書館榎本洋介	
1. 札幌へ来る人びと	
道内への移住の変化 道内からの移住者の増加	①
明治21年と43年の札幌の出身地別人口構成	②
札幌区の人口増加	③
2. 札幌区民の生活の進歩	
ゴミの捨て場所 大通へのゴミ捨て、東4丁目、ゴミ焼却	④
市街地の除雪 囚人の除雪、中心部の除雪、公費による駅前通の除雪	⑤⑥
大下水網の整備	⑦
○明治末・大正はじめに下水道整備計画 実現せず	
幅員同一ナルガ故ニ、一旦強雨ノ襲来アラハ汚水ハ忽チ街路ニ溢流氾濫シ、 又平時ニアリテハ汚水ノ天然蒸発ト地中浸透ヲ免レス	⑧
トイレの改造 衛生観念の喚起	⑨⑩
市民意識の変化 醜景への対処 狸小路から狸の排除、すすきのの排除	⑪
3. 札幌周囲の農村の変化	
掠奪農業から施肥へ	⑦⑫
近郊農村の役割	

当日のレジュメ

1. 札幌へ来る人びと

今回は、札幌のまちづくりが始まって、おおむね20年ぐらいたったころの様子を考えてみるということにしています。

北海道の開拓が始まり移民たちが本州方面からたくさん入ってくるようになります。実は、時期的にいろいろと質が変わってきます。明治の初めは、戊辰戦争の敗残者たちは、禄を削られるので藩の中では生活できなくなり移らざるを得なくなりました。仙台藩はその典型的な例とされています。

江戸時代には、本来農民は土地に縛りつけられている人たちでした。何とか村で一生懸命働いて生活できている農民たちがいきなり北海道に来て開拓をするということは、原則、あり得ないのです。これは、藩の側から見ても大事な働き手が出ていくことになるため、そういうことを許されるわけはありません。北海道への移住者たちは、そういう体制の中からはみ出てきたわけで、農家だと次男、三男、四男といった村にいられない人たちが多かったようです。

それが、明治10年代から20年代になると、秩禄処分や地租改正などが行われて、日本の社会構造が変わりはじめ、農民たちが土地から追い出されてくるようになります。

今度はそういう人たちが移民の中心になり、生活のために新天地を求める時代になるのが明治10年代後半以降くらいになります。

道内への移住の変化

明治10年代以降の移民の様子を簡単に見てみますと、資料①の北海道・札幌市の来住者という表を見てみましょう。

①

「札幌市」と書いていますけれども、札幌区も札幌市も分けないで考えてみてください。表中の「来住者」は移民として来る人たちで、「往住者」は北海道とか札幌から違う場所へ行く人たちのことです。

北海道へ入ってくる来住者と出て行く往住者を見ておわかりのとおり、明治10年代より20年代、30年代というように人数が増えていきます。実際の数字を見ると減っているところもあるかもしれませんが、おおむね右肩上がりです。前回まで話していた開拓使の時代というのは、実は、多くの移民が来ている時代ではなくて、むしろ少ない時代であったと考えられています。この表に出てくるような時代のほうが移民は多くなります。

北海道・札幌市の来住者

明治	全道		札幌		札幌の全道に対する割合	
	来住者	往住者	来住者	往住者	来住者	往住者
17	4,656	444				
18	10,359	826				
19	9,609	747				
20	9,038	877	774		8.6	
21	8,586	822	696		8.1	
22	13,118	775	858		6.5	
23	15,393	881	1,242		8.1	
24	15,738	782	1,424		9.0	
25	42,708	5,547	1,638	76	3.8	1.4
26	49,047	7,772	1,752	167	3.6	2.1
27	55,259	7,591	1,725	233	3.1	3.1
28	59,671	8,630	1,608	389	2.7	4.5
29	50,396	9,589	1,024	433	2.0	4.5
30	64,350	11,619	1,457	421	2.3	3.6
31	63,629	11,381	1,137	372	1.8	3.3
32	45,394	8,370				
33	48,118	7,847	887	246	1.8	3.1
34	50,105	9,768	1,008	232	2.0	2.4
35	43,401	9,985	817	313	1.9	3.1
36	44,942	8,738	802	287	1.8	3.3
37	50,111	9,027	1,114	305	2.2	3.4
38	58,224	10,395	1,216	456	2.1	4.4
39	66,793	10,092	1,806	708	2.7	7.0
40	79,737	13,457	3,726	1,475	4.7	11.0
41	80,578	15,578	4,166	1,067	5.2	6.8
42	63,848	13,799	3,300	1,611	5.2	11.7

新北海道史第9巻、新札幌市史第8巻 I

全道に対して、札幌に来る人、札幌から出ていく人についてもこの表にあります。それも少しずつ増えてることがわかります。さらに札幌に来る人は北海道に来る人の中のどれくらいの割合になるのか、札幌から出ていく人は北海道から出ていく人の中のどれくらいの割合になるかということも表にしてみました。

明治20年で札幌へ来る人は北海道に来る人のうちの8.6%です。この数字を縦に見ていただくと、はっきり差が出てくるのがわかります。明治25年から格段に割合が減っています。人数が減っているわけではないのに割合が減るのは、そのころから札幌以外に入ってくる人たちが格段に増えてきたということです。

具体的には、今の国道12号に沿って、空知の滝川あたりから上川にかけての開拓が始まるのが明治20年代半ばなのです。それ以降札幌を中心とする地域ではなく、北海道のより内陸のほうにたくさんの移民が入っていったことを示しています。その結果、札幌の占める割合が小さくなっていったということです。北海道への移民の入植する場所が変わってきたということがこれでわかるわけです。

札幌区住民の出身地

資料②の表は、そういう移民たち、札幌へ来る人たちの出身地を示してみました。これ

は、明治21年と明治42年当時に札幌区に住んでいた人たちの出身地の数字です。

明治21年も明治42年もおおむね全国から来ていると言っていると思います。もちろん、地域によって多い少ないはあります。これは北海道への移民の傾向と同じで中心は東北6

②
 ①の明治41年と42年にまた移民がふえてきたという話と結びつくのだらうと思っています。

明治42年のほうが札幌区出身が多いというのは、親やおじいちゃん、おばあちゃんが移住し、その子どもや孫が成長してそのまま札幌に住んでいるということです。その次の項目は北海道で、21年の数字は道南の江差や松前、函館、小樽など江戸時代から人が比較的多く住んでいるところから札幌へ入ってきた人がある程度の割合を占めるのだらうと推測されます。それに対し、明治42年の数字は、先ほどの表の北海道以外から出て行く人たちが増えてきたということとの関係が考えられます。札幌以外に入植した人たちは、全ての人が成功するわけではありません。札幌に入植した人もそうですが、移住に失敗して生活できなくなったときに、そこから逃げ出さなければならなくなり、どこか食べられるところへ行かなければならなくなります。行くところは主に東京や大阪あたりです。明治30年代、40年代ぐらいになると、後の阪神工業地帯や京浜工業地帯となる地域は、いろいろな産業が発達し始め多くの工場が増えてくる時期で、その労働者として受け入れられる余地がある時期です。

その他の行き場所の一つが札幌だったということになります。その数字がどうもこれらしいということです。なぜ札幌がいいのか、札幌に行けるのかという理由の一つは、移民のほうの事情で、東京や大阪そして故郷まで行ける資金があるかどうか、資金がないと、札幌まで出てきて何とか生活しようとする人たちがいたようです。

札幌区の人口増加

次は、札幌市全体の人口を見てみようと思います。

資料③は、『札幌市統計書』というものが毎年出ていますが、それに必ず載っている表です。この表は、明治44年で区切っています。『札幌市統計書』には明治26年以降の分が最近まで載っています。もし最近の数字を知りたい方は図書館などで確かめていただければと思います。話の都合上、この表は明治44年で切ってあります。

	明治21(1888)	明治42(1909)
札幌区	—	25,435
北海道	3,067	11,096
青森	1,172	941
岩手	1,224	1,213
宮城	548	1,658
秋田	1,013	1,212
山形	792	1,390
福島	437	786
茨城	135	209
栃木	99	138
群馬	92	127
千葉	120	158
東京	783	818
埼玉	85	111
神奈川	133	104
新潟	1,661	3,401
富山	526	1,601
石川	765	1,240
福井	1,396	1,010
長野	118	318
岐阜	70	127
山梨	93	167
静岡	83	113
愛知	94	160
滋賀	136	275
京都	143	177
三重	104	86
奈良	48	38
大阪	107	145
兵庫	116	171
和歌山	30	96
鳥取	168	182
島根	42	77
岡山	36	109
広島	63	150
山口	61	182
香川		69
愛媛	28	129
徳島	105	254
高知	49	57
福岡	52	126
佐賀	76	62
長崎	83	42
大分	41	75
熊本	84	122
宮崎	10	11
鹿児島	272	153
沖縄		3
樺太		2
外国		53
合計	16,366	56,349

『明治22年札幌区役所統計概表』
 『札幌区勢調査研究』より作成

「札幌市（組替）」という項目がありますが、以前は隣接していた町村があり、今は札幌市域に編入した町村の人口も全部あわせた数字です。それぞれの区町村の人口は、「旧市町村別人口」の項目です。札幌市、手稲町、豊平町…とある項目が各市町村の合併前の人口です。札幌市となっていますが、長い表を切ったので札幌区から札幌市になるのですが、この時代だけだと札幌区です。七つの町村と、一つの区（市）があって、それらが合併してできたのが札幌市となります。

③

札幌市の旧市町村人口推移

年次	札幌市（組替）				旧市町村別人口							
	世帯数	総数	男	女	札幌市	手稲町 1)	豊平町 2)	篠路村 3)	琴似町 4)	札幌村 5)	白石村 6)	円山町 7)
明治26年(1893)	10,612	53,491	27,694	3,060	5,578	3,545	3,544	4,140	3,425	2,505
27年(1894)	10,967	54,435	28,151	2,685	5,243	3,869	3,722	4,306	3,840	2,619
28年(1895)	10,787	56,354	27,867	2,973	5,454	4,405	4,012	4,622	4,277	2,744
29年(1896)	11,469	62,950	33,710	2,935	5,889	4,633	3,785	4,755	4,402	2,841
30年(1897)	12,404	66,518	35,306	3,067	6,013	4,843	4,001	5,162	5,180	2,946
31年(1898)	12,655	69,221	37,111	32,110	37,464	2,710	6,085	5,143	4,024	5,482	5,224	3,089
32年(1899)	12,545	73,503	39,394	34,109	40,578	3,102	6,237	4,750	4,177	6,181	5,599	2,879
33年(1900)	13,501	79,921	42,575	37,346	46,103	3,097	7,244	4,913	4,261	5,634	5,569	3,100
34年(1901)	14,199	83,739	45,086	38,653	48,720	3,321	8,073	4,057	4,384	5,807	5,771	3,606
35年(1902)	14,621	83,945	45,955	37,990	51,327	3,321	8,413	5,105	4,239	4,167	3,364	4,009
36年(1903)	14,937	88,587	47,716	40,871	55,304	3,234	7,406	3,895	4,672	5,312	4,771	3,993
37年(1904)	14,726	88,470	48,352	40,118	57,458	3,109	7,946	3,700	4,708	4,113	3,275	4,161
38年(1905)	15,100	93,777	50,992	42,785	60,884	2,811	8,969	3,748	4,566	4,324	3,679	4,796
39年(1906)	16,000	98,678	52,793	45,885	62,493	3,386	9,567	2,925	6,044	4,620	4,676	4,967
40年(1907)	16,939	106,672	57,408	49,264	66,193	3,893	10,397	2,966	6,599	4,450	5,246	6,928
41年(1908)	18,039	109,824	58,989	50,835	70,075	3,914	10,543	2,955	6,508	5,862	5,017	4,950
42年(1909)	18,964	114,730	61,310	53,420	73,221	3,893	10,875	3,062	6,552	6,180	4,386	6,561
43年(1910)	20,354	121,687	65,139	56,548	88,841	3,932	6,326	3,304	6,582	5,413	4,362	2,927
44年(1911)	20,888	126,654	67,663	58,991	93,218	4,169	6,544	3,314	6,531	5,360	4,558	2,960

注：1) 明治26年～34年までは、旧下手稲村、旧上手稲村及び旧山臼村を合計して組替えた数値。35年4月1日に2級町村制施行。昭和26年11月1日に町制施行。 2) 明治26年～34年までは、旧豊平村、旧平岸村及び旧月寒村を合計して組替えた数値。35年4月1日に2級町村制施行。40年4月1日に1級町村制施行。41年6月20日に豊平村から豊平町に名称変更。 3) 明治39年4月1日に2級町村制施行。 4) 明治26年～38年までは、旧琴似村、旧寒村を合計して組替えた数値。大正12年4月1日に1級町村制施行。昭和17年2月11日に琴似村から琴似町に名称変更。 5) 明治26年～34年までは、旧札幌村、旧苗穂村、旧丘塚村及び旧樺来村を合計して組替えた数値。35年4月1日に2級町村制施行。大正13年4月1日に1級町村制施行。 6) 明治26年～34年までは、旧白石村、旧上白石村を合計して組替えた数値。昭和7年6月1日に1級町村制施行。 7) 明治26年～38年までは、旧円山村、旧山鼻村を合計して組替えた数値。39年4月1日に2級町村制を施行し、藻岩村となる。昭和6年4月1日に1級町村制施行。13年4月15日に円山町に名称変更。 <資料> 政 政策企画部企画課

明治26年の札幌区の人口は27,694人となっています。実は、明治20年の人口は13,000人ぐらいなのです。6年で倍に増えているのです。その明治20年が13,000人、明治30年が35,000人、40年は66,000人です。このころの札幌区の人が住んでいる範囲は、南北は南7条から北10条くらい、東西は東8丁目から西は11丁目ぐらい、場所によっては西8丁目ぐらいまでの範囲です。今の札幌の中心部の中でも、さらに中心の部分だけです。面積として4平方キロメートルくらいの広さになるのだそうです。そういうところに、わずか20年間で13,000人から66,000人ぐらいに増えたわけです。その背景は、先ほど言ったような日本全国のいろいろな事情があったり、北海道に移住してきた人たちが失敗して札幌に移ってきた等により人口が急増しているということです。

村のほうも確かめておこうと思います。札幌市（組替）の総数と旧市町村別の札幌市の差が町村人口になりますが、大体2万数千人から3万人ぐらいです。7つの町村ではこの20年間ぐらいでも数千人しか増えていないということです。例えば、明治26年は、区が27,000人で、町村を入れると53,000人ですから、町村は26,000人ぐらいです。明治30年では、35,000人が札幌区で、全部で66,000人ですから、町村を合わせて31,000人ぐらいです。明治40年は、66,000人が札幌区で、周辺町村を入れて10万人ですから、町村は34,000人ぐら

いです。村のほうはそんなに急激にふえているわけではなく、都市部が急激にふえているということです。

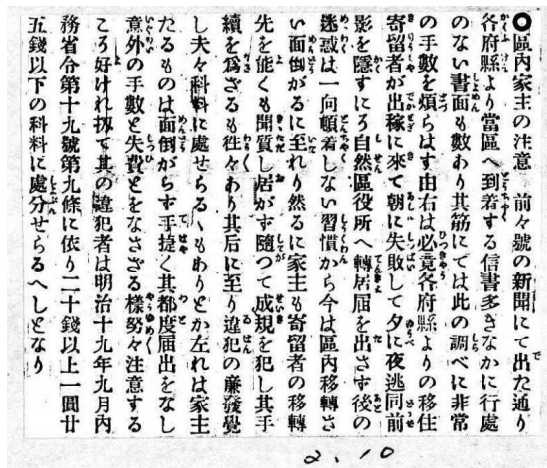
この数字を個々に見ていくと、それなりにおもしろいです。例えば、豊平町は結構ふえてきていますが、明治43年になると急激に減っています。これは、今の豊平区は市街地の中心部から豊平川を渡るとすぐ豊平区ですが、当時の豊平町も同じで、明治43年に川に近いほうの部分を札幌区に編入したのです。豊平町の人口の多い部分が編入された結果、人口が減っているわけです。円山町も同じ事情で、山鼻村の部分が札幌に編入したので急激に減っています。白石も菊水のあたりを札幌に編入したので、同様な現象が起こっているはずですが減少していません。理由はまだ不明です。

札幌の人口を見てきましたが、道内の中で札幌周辺以外の移住者がふえてきました。そして、札幌区に人口が集まるようになってきたのですが、その理由は道内からの移住者であることがわかってきました。

01-3

人口が増加してくると、いろいろなことが起こってきます。今度はそれを見ていこうと思います。人口が急増していることを書いた史料は少なく、それをに合わせる新聞記事をお見せします。

資料01-3は、明治24年2月10日の新聞記事（北海道毎日新聞（以下道毎日と略す））で、札幌区に移り住んできた人たちは届けを出すことになっているのですが、その後、勝手に家移しても届けを出していないということに関する新聞記事です。人の動きが煩雑になって



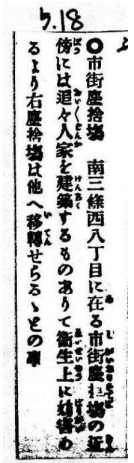
きているので、把握し切れなくなりつつあることを示していると思われます。そのため届けを出さない、出さないと罰金だと一番後ろに書かれています。区内の移動が激しいため、把握しにくく煩雑になっているということがわかります。

2, 札幌区民の生活の進歩

このように人口が増えてきた現在の札幌都心部に、人が増えてくるとで ④02-01 いろいろな問題が出てきます。明治20年代から30年代の新聞にはそういう問題がたくさん出てきます。

ゴミの捨て場所

新聞記事が並んでいる資料④にあるように、ごみの問題です。人口が少いときは、生活ごみがどこかに飛んでいっても大きな問題は起こらなかったと思います。しかし、人口がだんだんふえてくると問題を起こしてくるということになります。その中で言葉として出てくるのは、衛生上の問題がこの時期の問題になってきます。衛生上の問題というのは、江戸のような都市では江戸時代からあるのですが、札幌でも取り沙汰されていくようになりました。そのような問題が、新聞記事に載ってくるのがこの時期です。



資料④02-01「市街塵捨場」(道毎日明治21年5月18日)という見出しで、南3条西8丁目にごみ捨て場があったことを報道しています。今のまちの中心部ですが、狸小路の西8丁目はごみ捨て場だったのです。

このようなごみ捨て場は、当時の街の中心部の住民がたくさん住んでいるところの外れです。

④02-02

④02-03

④02-04

これから、ごみ捨て場の場所を見ていこうと思います。

資料④02-02(道毎日明治24年11月17日)は、ごみ捨ての世話をするのに、古川という人が出願したという話です。今で言うと、ゴミ収集車の話になるのでしょうか。資料④02-03(道毎日明治32年1月21日)には、警察署がごみ捨て場を管理していることと区内に4カ所ぐらいのごみ捨て場があったとあります。

○塵埃捨場 傳染病の媒介となるが分取捨除の行方不潔に成るに於て各戸別々に各々行方不潔に於て互に打突て置くは衛生上有害なるべからず右に於て札幌市古川真一外一名は一手に於て札幌市街の除穢をなさんとて其筋へ出願したりといふ

○塵埃捨場に就て 富区の人口一日増加するに於て塵埃も亦多量となり且市街付近に捨場あり塵埃推積するは公衆の衛生に害あるは勿論なり危険の事なれば札幌警察署にては四ヶ所位の地を撰んで塵埃捨場を設けんと其土地探出に就き専ら支障と交渉中なりと云ふ

○塵埃捨場設置 札幌区共同塵埃捨場は大通東四丁目一個所ありしのみなり近年戸口増殖し甚だ不便なるを北七條札幌製麻株式會社の北裏に當る官村朝三氏所有の四坪凡一町歩余の空地は現に池沼に墮し居るから交汚を帯て警察署に於ての上り指定するに於てはしむべしと云ふ

資料④02-04の記事「塵捨場設置」(道毎日明治34年6月9日)は、共同ごみ捨て場が、「是迄大通り東四丁目に一個所ありしのみ」とあり、それに加えて、「近年戸口増殖し甚だ不便なので北七條札幌製麻株式會社の北裏に當る」誰そのの所有地は北8条東1丁目になるのでしょうか。大通東4丁目は、今の市民ギャラリーのあるところでしょうか。今の市民ギャラリーのところは、その前は東小学校で、その前がごみ捨て場でした。

④02-05

④02-06

④02-07

資料④02-05(道毎日明治34年11月3日)は、ごみの焼却場と泥濘、泥の捨て場とあり、ゴミを焼いた後の灰の捨て場所を南1条通の西10丁目と11丁目、大通東4丁目、製麻会社の北側の北8条東1丁目に捨てる場所をつくろうとしています。確認

○塵埃捨場 札幌区には一般來塵捨場として南一條通り西十丁目同十一丁目及び大通東四丁目北八條東一丁目官村朝三氏所有の地並に同地に汚泥を貯留の儀認可申請中なり其筋に於て以南一條通西十丁目十一丁目を以て同地に於て塵埃を焼却する時は煙西方に飛散し臭氣之れに存ひ人民の迷惑少なからざるに付き認可せざる方なるも他別故に依り認可を與ふべし

○塵埃容器 北三條東二丁目二番地宮路藤枝は今回應合第百三十號汚物掃除法に基き區民毎戸設置の塵埃容器を製造販賣する由なるが昨日其一個を本社に寄附ありたり

○塵捨場設置 従來札幌大通東四丁目以南を區内共同塵埃捨場とし來たりしに全所現今家屋を建設して余地なく爲り共同塵捨場のなくなりしより大通東四丁目小村長助所有の地を公用設置出願せり

できませんでしたが、南1条通の西10丁目と11丁目は、堀の跡だそうです。そういうごみの話になってくると、資料④02-06(道毎日明治34年12月1日)にあるようにごみ捨ての容器のことも新聞に載っていました。

④02-08

資料④02-07(道毎日明治35年2月23日)は、ちり捨て場の設置願がまた載っています。これには「共同塵芥捨場」として「来たりしに全所現今家屋を建設して余地なく」なったために、共同ごみ捨て場所を大通東4丁目の誰そのの土地にしたいとあります。私は漠然と一町一画を捨てる場所としていたのですが、ゴミ捨て場の脇に建物が建ったので、同じ条丁目の中のほかの場所にかえましたということです。もともとのごみ捨て場の広さが、そんなに広いわけではなさそうです。

○共同塵芥捨場の設置 札幌区共同塵芥捨場及焼却場は是迄大通りより南三條東四丁目を以て充用し來たりたるも既に人家の絶せしに付該換場なきに付區民一般の困難一方ならざるに付南二、西十、札幌區と山鼻村道交叉の四所を以て共同塵芥捨場となし設置の儀原田傳彌外九氏より出願せしに付目下其筋に於て調査中なるを以て近許可の運びに在るべしと云ふ

資料④02-08(道毎日明治35年3月9日)は、ごみ捨て場の場

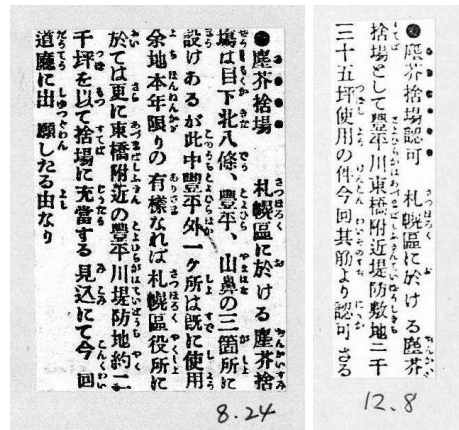
所が南3条東4丁目、「札幌区と山鼻村道交叉の凹所」となっていますから、先ほどの南1条西10、11丁目あたりを指すのでしょうか。

資料④02-09（北海タイムス明治43年8月24日）の明治43年ころになりますと、北8条、豊平、山鼻の3カ所に捨て場があり、さらに東橋付近の豊平川堤防地に設置しようとしています。

ごみ捨て場は、住所が当時の街の端です。その当時の人たちも、自分の生活の場のすぐ近くはごみ捨て場にしたいくないようです。ごみの焼却場は人が余り住んでいない郊外につくられます。衛生上、何とか自分たちの生活の場から遠ざけたところに持っていかうと考えていたようです。札幌という街に多くの人が集まってくると、生活の場としての空間をちゃんと確保しなくてはならないことが起こってきます。

④02-09

④02-10



市街地の除雪

やっぱり人口が増えてきて、いろいろな仕事も増えてくると、冬も活動しなくてはならなくなります。その動線の確保をすることもこの時代のテーマになってきます。

次は資料⑤03-01（道毎日明治21年1月15日）にある雪掃除は今の除雪の話なのです。「南一条二条三条四条の西一丁目二丁目は道の中央に雪を積み左右両側幅二間乃至三間宛を」積み上げるとあります。街の中心部の除雪の仕方のことですが、道路の真ん中に雪を積み上げ左右両側2～3間ずつを除雪しなさいとあります。恐らく店の前を除雪しなさいということです。それに対して同じ南1、2、3、4条の3丁目、4丁目は道の中央より左右に2間半ずつをあけなさいといっていますので、3丁目と4丁目は真ん中を除雪しなさいということです。次の資料⑤03-02（道毎日明治21年1月18日）の記事も同じことを書いています。

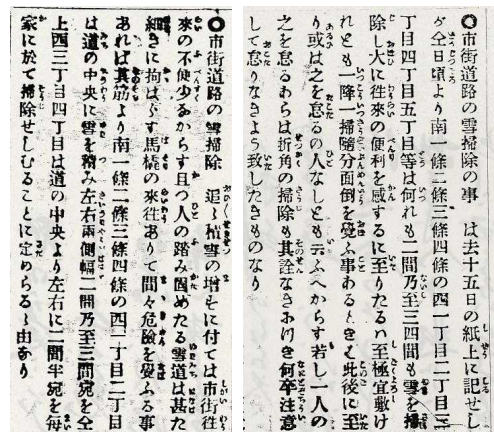
資料⑤03-03、04（道毎日明治22年3月2、5日）は、明治22年には、こんな除雪の仕方をして

います。それには「因に記す其筋に於ては市中の積雪を囚徒を以て取方付の事と爲さしむる」とあります。札幌監獄の囚人を使っていいよとなっています。この頃は、囚人はまだ外役が許されていた時代です。囚徒1人の賃金は1日7銭です。

資料⑤03-05（道毎日明治28年1月17日）に積雪の踏み固めについても、警察署が監督をすることを報道しています。馬そりや人力車等の取締とあります。人力車は冬の場合は

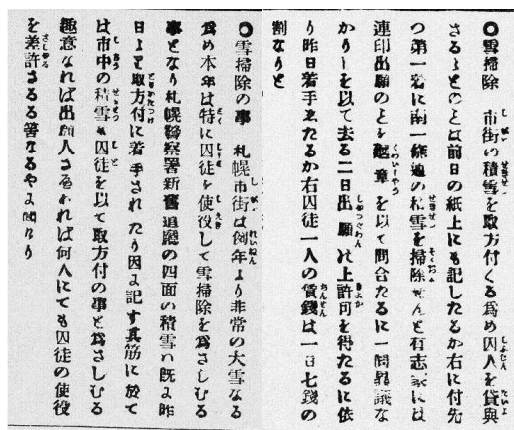
⑤03-01

⑤03-02



⑤03-03

⑤03-04



人力そりも含まれるかもしれません。

資料⑥には除雪の風景が絵はがきで残っています。⑥03-06は、明治末の狸小路です。店前の道路に雪が積まれ、その雪山の上を人が歩いているように見えます。

⑥03-07は大正時代の写真で、店が狸小路の両側に並んでいるのがわかりますが、先ほどの新聞の通りに店の前を除雪し道路の真ん中に積んでいる様子がわかります。

次の⑥03-08は、昭和です。この時代でも真ん中に雪を積んで両側を人が通っている様子がわかります。

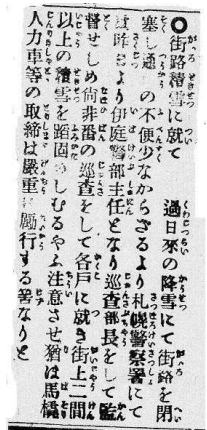
多分、この絵はがきで除雪の様子が一番はつきりわかりますし、先ほどの資料は明治21年の新聞ですが、昭和の初期も同じ様な除雪の仕方だったようです。この時代はまだ車が多いためこのような除雪の仕方で大丈夫なのでしょう。

資料⑥03-09、10は、古文書が2枚ほどつながっています。

本文の一番最後に解説したものを載せてあります。

内容は、明治36年に、助川貞二郎という市内電車の会社をつくった人が、市中の除雪を区費でやったらどうかという案を出しています。それに対して、助役が理事者として答えは、したことがないので、どんなふうにしたらいいかわからないので、あなたは方法がわかりますか、というものです。助川は以前に道庁が行

⑤03-05



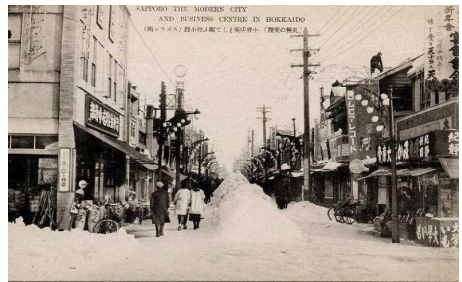
⑥03-06



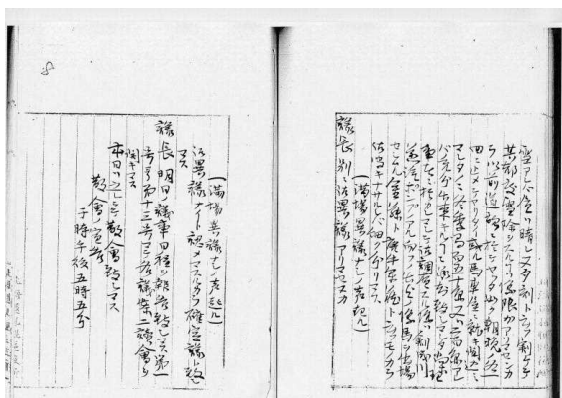
⑥03-07



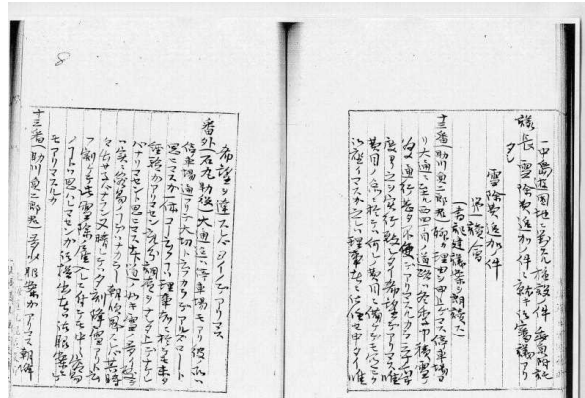
⑥03-08



⑥03-10明治36年区会議事録(続)



⑥03-09明治36年区会議事録



っていたときの事例や馬車屋から聞き込んだ事例を紹介しています。

札幌区は明治36年度から、公費で札幌駅前通の除雪をします。それが、札幌区が公費で始めた除雪の最初です。その後大正7年まで、150円の予算で除雪しています。大正7年から計上されていないのは、そのときから助川が始めた電車運行により、電車会社が除雪

をしているからです。

電車の運行を確保するために、三越前のような街の中心部でも、人海戦術で除雪をして電車を走りやすくしています。そのために、トロッコのような車両に雪を積み込んで運んでいる写真が残っています。

札幌は北国の都市で、まさに人口が増えてきたら冬の都市機能を守るためには、公費で除雪をしていかななくてはなりませんでした。